

# 越の丸なす

(緊急情報・猛暑時の栽培管理について)

上越農業普及指導センター  
JA えちご上越園芸畜産課

7月21日の梅雨明け以降、記録的猛暑が続き、例年以上につやなし果、奇形果の多発、落花、草勢の低下が問題となっています。体調管理に気をつけながら、以下の管理を行ってください。

## 1 つやなし果・奇形果の除去

つやなし果・奇形果が見られる場合は、早めに摘果してください。残しておくと、草勢低下を助長し、他の果実にも影響がでやすくなります。

〔※気温が35~40℃を超えると、奇形果が発生しやすくなり、また、夜温が高い場合、花質が低下し(短花柱花・小花等)、落花しやすくなります。〕

## 2 微量元素の補給と、内部黒変果実の混入防止

高温による草勢低下や着果負担によって、下位~中位葉の黄化や、果実の内部黒変もみられています。主な原因は、微量元素欠乏(苦土(Mg)、ホウ素(B)、カルシウム(Ca)等)と考えられるため、微量元素を含む追肥を施用するか、葉面散布を行ってください。

※葉面散布資材の例

- ・「OATハウス6号」(Mg 単体 16%)
- ・「アミグロー」(Mg 他各種微量元素配合)
- ・「メリットM」(Mg 他各種微量元素配合) 等



**○軽微なつやなしや奇形でも、内部が黒変している場合がありますので、疑わしいものは、出荷物に入れないよう留意ください。**

## 3 かん水

高温時、一度に大量のかん水を行うと根が傷み、かえって草勢が低下したり、青枯病や半身萎凋病等の発生につながります。猛暑時のかん水は、少量多回数が望ましく、午前中の気温が上昇しきる前や夕方を中心に複数回、うねの内部の土を軽く握って崩れない程度を目安に実施してください。気温が下がってきたら、土壌の水分に応じてかん水間隔をあけるようにします。